特発性内反母趾の治療経験

南風病院整形外科

富村 奈津子・川内 義久
和田 正一・領木 良浩

A Case of Idiopathic Hallux Varus

Natsuko Tomimura, Yoshihisa Kawauchi, Shoichi Wada
and Yoshihiro Ryouki

Department of Orthopaedic Surgery,
Nanpuh Hospital, Kagoshima

An unusual case of idiopathic hallux varus is reported in this paper. A 63 year-old woman presented with hallux varus deformity accompanied with pain and showed no evidence of underlying inflammatory disease nor history of trauma. This case had 42 degrees of the pre-operative varus deformity. Muscle release and reconstruction without osteotomy resulted in good alignment of the great toe and the patient was cured of gait disturbance with pain.

Key words : Hallux varus (内反母趾), idiopathic (特発性)

はじめに

今回我々は極めて稀な特発性内反母趾の1例に対し、観血的治療を行い良好な結果が得られたので報告する。

症 例

症例は63歳の女性である。

既往歴に特記すべき事項はない。血液生化学所見に異常なく、RA因子も陰性であり、明らかな外傷歴はない。

17年前より右母趾の変形に気付いていたが痛みはなく放置していた。H8年11月頃より右母趾痛が出現し、歩行時痛が次第に増強してきたため、近医を受診した。消炎鎮痛剤の内服にて症状は軽快せず、H9年6月25日当科を受診した。

初診時、右母趾はMP関節部で強く内反し、同部に腫脹・圧痛を認めたが熱感は無かった。他の足趾にも内反変形が軽度認められ、第3・4趾趾間関節は屈曲拘縮がみられた(図1-a)。

単純X線像では、第1中足骨に対する基節骨の内反角は42°であった。MP関節部には骨硬化像を認めた(図2-a)。

7月26日手術を施行した。母趾内側に約12cmの皮切を加え、母趾外転筋を確認し、これを基節骨付着部にて切離した。母趾外転筋は足底方向に偏位し、筋腹は正常よりかなり中枢側に偏位していた。MP関節の肥厚・瘢痕化した関節包を切除し、足底部の線維性癒着を剥離したが母趾の整復は不十分であった。

次に第1-2趾趾間にS状切開を加え、第2趾の短趾伸筋を付着部より切離し、瘢痕組織のなかに包まれていた母趾内転筋の付着部を確認した。母趾内転筋は足底方向に偏位していた。母趾内転筋を関節包付着部にて切離し、関節包を縫縮した後、基節骨にdrillingを行い、短趾伸筋と母趾内転筋を内側にpull outした。この操作で母趾は良肢位に固定された。

切離した母趾外転筋を第1中足骨に縫縮した後に、Kirschner鋼線にて趾尖より中足骨まで固定し、術後は下腿から足尖までのギブスシーネ固定とした。

図 1-a 初診時肉眼所見

図 1-b 術後肉眼所見

図 2-a 初診時 X 線写真

図 2-b 術後 X 線写真

術後3週間で Kirschner 鋼線を抜釘し母趾の自動運動を開始, 5 週後より歩行を許可した. 歩行開始時には術前にみられた歩行時痛は消失した. 単純 X 線上母趾は内反 42° が外反 20° となり (図 2-b), 現在まで過矯正変形も認めず, 経過良好である (図 1-b).

考 察

内反母趾変形の原因として, 1) 先天性, 2) 多趾症に伴うもの, 3) 外反母趾矯正術後の過矯正, 4) 外傷性, 5) RA に合併するものなどの報告がみられるが, 本症例のように特発性と考えられる症例は稀で¹⁾, 我々が渉猟しうる限り本邦では羽鳥ら³⁾の報告の1例のみであった. 羽鳥らは自験例の内反母趾発症要因の1つとして下駄や草履の使用により長年にわたり母趾 MP 関節に内反ストレスが加わっていたことを挙げているが本症例ではそのような生活習慣はなく, 発症要因は不明である.

手術法については様々な報告²⁾⁴⁾をみるが本症例では, 母趾外転筋・内転筋の緊張や関節包の肥厚・癒痕

化を認め, それら軟部組織の処理のみで骨切りを行なうことなく整復位を得ることができた. 術後10カ月を経過した現在も過矯正変形を認めず, 経過良好である.

ま と め

①特発性内反母趾の1例を報告した.

②内反母趾変形に対し観血的治療を行い良好な結果が得られた.

参 考 文 献

- 1) Davies, M.S., Parker, B.C.: Idiopathic Hallux Varus. *Foot Ankle*, 16 : 210-211, 1981.
- 2) Granberry, W.M., Hickey, C.H.: Idiopathic Hallux Varus. *Foot Ankle*, 15 : 197-205, 1994.
- 3) Hatori, M., Ito, K., Kokubun, S.: Idiopathic Hallux Varus. *The Foot*, 6 : 145-147, 1996.
- 4) Jhonson, K.A., Spiegl, P.V.: Extensor hallucis longus transfer for hallux varus deformity. *J. Bone Joint Surg.*, 66A : 681-686, 1984.